

日本海における大規模地震に関する調査検討会

平成２５年１月
国土交通省

１．設立趣旨

平成２３年１２月に施行した「津波防災地域づくりに関する法律」においては、避難を軸とした津波防災地域づくりを全国で推進していくこととしており、その基礎となる津波浸水想定のための津波浸水シミュレーションを都道府県が実施するに当たっては、対象とする津波の発生要因となる巨大地震の断層モデルが不可欠である。

一方、日本海においては、津波の発生を伴った地震の震源域の分布に偏りがあるほか、これまで地震の発生が知られていないが、その可能性が指摘されている海域もあり、今後発生が想定される地震について、十分な検証ができているとは言えない。

こうした状況を踏まえ、関係道府県が防災対策において想定する津波の検討に資するよう、これまでに日本海で発生した地震に関する科学的な研究成果や既往の知見を幅広く整理、分析し、津波の発生要因となる大規模地震に関する基礎調査を国として行うため、中央防災会議事務局である内閣府（防災担当）と地震調査研究推進本部事務局である文部科学省の協力を得て、地震学の研究者等から構成される検討会を開催するものである。

２．検討事項（案）

- 日本海における地震に関するこれまでの研究成果等の整理
- 断層モデルのパラメータについて（既存モデルの整理等）
- 今後の調査研究の方向性について

３．今後のスケジュール（案）

- 年度内に計３回検討会を開催予定。
- ２．の事項について、委員間で一定の共通認識を得て、本検討会としての成果をとりまとめて頂く予定。

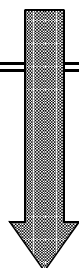
本検討会の位置づけ

本検討会での検討

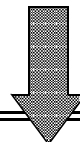
※ 地震学の観点から専門的に検討

日本海において津波の発生要因となる大規模地震

- ・ 断層モデルのパラメータ
(既存モデルの整理等)
- ・ 今後の調査研究の方向性



結果を活用



調査研究の実施

関係道府県での検討（津波防災地域づくり）

※ 地震学のほか、津波や防災・減災、まちづくり等の観点から総合的に検討

- ・ 対象とする最大クラスの津波の設定
- ・ 対象に設定した津波の発生要因となる地震の断層モデルの設定
- ・ 津波浸水シミュレーションの実施
- ・ 津波浸水想定の設定・公表（最大クラスの津波が悪条件下で発生した場合に想定される浸水域及び浸水深）
- ・ 津波浸水想定を踏まえた警戒区域・特別警戒区域の指定の検討 等